

南砺市文化芸術振興実施計画 第2回策定委員会 議事録

日時：令和7年10月31日（金）15時～16時45分

出席者：古池委員、松本委員、川合委員（代理：此尾様）、岡田委員、河合委員、

蓮沼委員、江川委員、氏家委員、岩佐委員、前川委員、長岡委員

事務局：野村課長、南田係長、酒井主事

欠席者：安嶋委員、川田委員

---

事務局 長：皆様大変いつもお世話になっております。本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻よりも少し前ですが、皆様のお揃いですので、これより、南砺市文化芸術振興実施計画 第2回策定委員会を開催させていただきます。本策定委員会は、「南砺市委員会等の会議の公開等に係る手続き要綱」に基づきまして、会議録の公開をすることとされています。会議録作成のため録音させていただきますことをあらかじめご了承くださいと思います。本日は、安嶋委員と川田委員から欠席のご連絡をいただいております。また、本日の会議は、16時30分頃までを予定しております。多くの委員の方にご意見をいただきたいと思いますと考えておりますので、円滑な進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。それでは開会にあたりましたA委員長がご挨拶申し上げます。

A 委員 長：皆様こんにちは。急に寒くなりましたがお変わりないでしょうか。ご存知の通り、民藝100年ということで、今、京都市美術館（京セラ美術館）で「民藝誕生100年展 京都が紡いだ日常の美」という展示がされております。言うまでもありませんが南砺市さんが3年前にまとめられた民藝の報告書の中に、民藝は生活文化運動と書かれていたかと思いますが、そういう意味で言うと、南砺市さんのほうがその民藝の精神を体現してるんだろうなというふうに思っておりますが、ただこれは時代とともに変化していきますので、どうやって受け継いで何を評価してみたところが、多分大きな課題になってくると思います。今日はその辺も後程議論になってくると思いますので、また皆様方、いろいろご意見賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 長：はい。ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。本委員会は、南砺市文化芸術振興実施計画策定委員会設置法第六条第1項に基づきまして、委員長が議長を務めることとなっておりますので、この後の進行はA委員長にお願いいたします。

A 委員 長：はい。では、どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速ですが、議事に入らせていただきます。お手元の資料をご確認ください。最初に第3次南砺市文化芸術振興実施計画の策定について、事務局の方からご説明をよろしくお願い

いします。

事務局：はい。第1回策定委員会で説明しました部分も含め、説明いたします。まず趣旨ですが、令和3年度より令和7年度までを計画期間として、市の文化行政の方向性を示した「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期）」並びに、基本計画の具体的な施策を定めた「第2次南砺市文化芸術振興実施計画」を策定し、これに基づいて今年度も文化芸術推進事業に取り組んでいます。急速に変化している社会環境等を考慮した上で、新たに南砺市文化芸術振興基本計画（第3期）及び「第3次南砺市文化芸術振興実施計画」を今年度策定し、令和8年度から令和12年度までの計画期間とします。次に、策定方法と本日までの取り組みについてご説明申し上げます。実施計画推進ワーキンググループにおいて、これまでの実施状況もふまえた実施計画（案）を作成することとしており、5月に市議会全員協議会で計画の策定の概要について説明し、6月には本策定委員会の第1回目の会議を開催し、策定スケジュールの確認と実施計画・基本計画の改定についてご了解をいただきました。また、推進ワーキンググループの全体会及び3つの部会を毎月1回を基本に開催し、本日の策定委員会に向けて議論を重ねて参りました。2ページ目の下段は、これまで、推進ワーキンググループで議論した主な変更等の概要です。3ページ以降と併せてご覧ください。3ページ目の基本計画の体系図で朱書きしてありますが、基本目標及び施策の方向性につきまして、少子高齢化による人口減少をはじめ、時代の変化とともに文化芸術を取り巻く環境の変化に対応した計画体系の変更を行うこととしたいと考えています。詳しい内容につきましては、後ほど基本目標ごとに説明する予定にしております。2つ目ですが、実施事業の分類におきまして、すべて長期的展望の中で実施を目指すこととし、現行計画にあります事業区分（初期事業・継続事業・継続事業（充実）・中期事業・後期事業）の分類を削除したいと考えております。3つ目は、現行計画で基本計画項目対応表は52事業と多岐にわたっています。具体的な事業と抽象的な事業が混在しているため、できる限り集約した対応表としたいと考えております。4つ目は、性別、年齢（高校生、大学生などの若い世代～高齢者）、国籍、障がいの有無に関係なく、文化芸術活動体験ができる場をつくることで、誰もが主体的に文化芸術活動に取り組める機会の創出を追加したいと考えています。5つ目は、令和3年3月の現行の計画策定時にはなかった中学校部活動の地域展開につきまして、南砺市文化協会や文化芸術団体と協力し、文化芸術活動に触れられる機会をつくるための助言・支援等を行うことを追加したいと考えています。6つ目に利賀地域の「上畠アート」や井波地域の「まちなみアート in いなみ」をはじめとしたアートイベントが行われている土壌があるなか、新たに福光地域で新しい地域密着型アートイベントの気運も高まっており、こうした市

全域に新しい地域密着型アートイベントが実施していけるように助言・支援等を行うことを追加したいと考えています。以上です。

A 委員長：はい。ありがとうございます。今ご説明いただいたところで何かご質問ございますでしょうか。特に時代の変化をどう捉えるかということと、事業が 52 とたくさんあり多岐にわたってるので、そのあたりをうまく整理をしたいというところをございまして、この後、基本目標 5 つについて部会ごとにご検討いただいておりますので部会長さんからご説明をいただきたいのですが、部会に出てない委員の方がおられますので、部会の様子なども含めて、ざっくりばらんに、こういうところが議論になったなども含めてご説明をいただければありがたいと思います。では基本目標 1 からお願いいたします。

M 委員：はい。私の担当は再評価・後継者育成部会ということで、先ほどございました月 1 回の会合をさせていただいて、基本目標 1 と基本目標 3 について協議いたしました。メンバーの 5 人で毎月話し合っておりますのでたくさんの意見が出てなかなかまとまらないところもあったのですが、事務局の酒井さんのご努力もありまして、何とかここまで来たなという感想でございます。それではまず基本目標 1 市民が創り上げる日常的な文化芸術の再評価というところからです。今回は表記の仕方もかなり変えております。今までですと基本目標 (1)、その次、①、そのあと括弧の下にさらに事業番号というのがずっと振られていましたが、かなり煩雑な面もあるなという意見もございまして、今回、①の下にもうそれぞれ 123 と番号を振り、具体的にどのような事業があるのかをすぐ下にも書いているという形にさせていただいております。中にはやはり個別の事業、一つ一つの事業であるという、結構大きい事業だったり、小さな事業だったり、バラバラではないかという指摘が出ておりまして、今回このような形、それぞれもうちょっと大きく大きな枠で見ながらその中でこんな事業が例としてあるこのような表記にしたかどうかというご意見がありましてこの形にまとめています。まず最初、①日常的な文化芸術の再評価 (a) 南砺の文化記録整理のところからです。少し書いてありますが、各地域に古くから残されている文化的資料などを調査・整理して市民に公開し、南砺市の文化芸術に対する市民の興味関心を高めることがこの事業の概要です。その中身についてですが、1 つ目の「善徳寺史料調査事業」とその次の「棟方志功資料調査事業」については現行と同じように載せております。これは今実際に進んでいて中間地点を過ぎたような事業ですので、この後、継続して進めていくということで、内容はほとんど変えていません。またその一番下の「南砺市文化芸術アーカイブズホームページの内容充実」についてでございますが、こちらもアーカイブのホームページは前回の計画策定時に完成したばかりでしたが、年月もたっているということで今回はこの文章の中身の方を少し変えて、伝統行事や文

化イベント、日常的な文化などの映像や資料の収集保存に努めるといったような文面を追加いたしました。また、こちらをぜひ教育現場で活用していただきたいという話意見も結構出ておりましたので教育現場での活用働きかけると入ってる文章を追加いたしました。続きまして (b) 地元地域での再評価・再発見です。「南砺らしい民藝の再評価と再認識」ですが、こちらも前回から項目的には同じです。ただ、調査報告書の民藝の心が生きるまちが第2次計画策定後にでき上がっておりますので、その中で再評価された南砺市らしい民藝といったものを若い世代や市外の県外に向けて、最終的にはブランド化を目指すといった言葉を入れて、調査報告書をもとにして、この後、南砺市の発展につなげていくといったような文面に変えました。その次「当たり前の習慣を掘り起こす」、これは全く新しく追加した項目です。地元の隠れた文化、誰も知らない文化スポットを当てて、見つめ直すきっかけを作る、また記録に収めることで継承の一助となるよう努めるというものです。現行の計画でも日常にある古い文化を映像に収める事業をしており、ぜひ入れたいと考えています。誰も知らない文化は今後消えていく可能性が大いにあるので映像などに収めてアーカイブズホームページに掲載するなどし、残していければいいのではないかと検討した内容です。続きまして (c) 文化芸術の発表の場の充実です。現行は、南砺市美術展の充実・発展ということで、美術展に限ったものがここに突然入ってくるのは違和感があると意見があり、やはりもう少し大きな枠で文化芸術の発表の場の充実という書き方をしました。1つ目には現行のものを継承したものも入っていますが、その次にイベントの定期開催を新たに入れました。市内の様々な団体や、第2次計画策定後に南砺市文化協会が誕生したこともあり、文化祭やイベントのなどを精力的に開催し、発表の場をつくっていただければと思い、追加しました。続いて、②世代や地域を越えた再評価-外からの評価から価値を高める、です。こちらはまず、現行は集落となっているタイトルを、地域に変えました。時代の変化もあり、やはり今、集落という言葉はどうかということなので今回地域を案としております。中身については (a) 文化の価値を認識するシンポジウム・フォーラムの開催、(b) 伝統的祭事等のモチベーション向上機会の充実ということで、ほとんど現行の計画と変わっておりません。シンポジウムの開催や伝統的祭事ということで今年行われました獅子舞共演会の定期開催といったようなところを盛り込んでおります。ただ現行のものと、前回策定時に南砺獅子舞に力を入れていこうという考えもあり、獅子舞に限定するようなど書き方をしていますが、今回はちょっと動かした形で、違う文化についてもモチベーション向上の機会充実をしていこう、ということで獅子舞にこだわらない書き方をしてみたいです。続きまして、③世界遺産・ユネスコ無形文化遺産の評価の共

有、です。この中には（a）世界遺産マスタープランの推進、（b）ユネスコ無形文化遺産の継承と啓発活動の2つがあります。現行の（a）と（b）とまとめ、3項目から2項目に整理いたしました。世界遺産マスタープランについては、別の計画としてあるわけですし、マスタープランに従うべきという意見があり、ユネスコの無形文化遺産については、県が事務局をして他の市町村と連携して行っている事業ということもあり、南砺市として細かく書くのはどうなのかという意見がありましたので、シンプルにまとめました。基本目標1は以上です。

A 委員長：はい。ありがとうございました。お気づきの点やご意見などありましたら願いいいたします。

B 副委員長：（a）の善徳寺史料調査事業について、今すでに始まっており、解析を進めている最中だと思いますので、全容解明を「目指す」というのはトーンが弱く、違和感があります。別の表現はないでしょうか。解明が進んだと書いてもいいと思いますし、解明したあとの活用などに触れてもいいと思います。また、（b）の、「南砺市らしい民藝」という書き方について、南砺市と民藝の関わりをもう一度再評価と再認識したいということだと思います。私は柳宗悦らが訪れたこの地を民藝のメッカと言いたいくらいの勢いですが、南砺市らしい民藝ということではなくて、「南砺市と民藝」という表現にしてはどうでしょうか。「らしい」という表現や、再評価するんだという強いものがあるのであればいいと思いますが、「再評価」も違和感があります。ただ、ブランド化を目指すというのはいいと思います。それから、当たり前の習慣を掘り起こす、これもいいと思います。

A 委員長：はい。ありがとうございました。今のところは多分、議論になるだろうと思って聞いていました。「南砺市らしい民藝」とは何だ、となってくるのかもしれませんが、この辺りの表現難しいですし、もしかしたらそのヒントが、「当たり前の習慣を掘り起こす」ではないかと思います。要するに文化は細部に宿るので、南砺市らしいというところを消えていきかねない日々の暮らしの細かいところに出てくるという意味でいうと、今回追加されたところが「南砺市らしさ」を表しているということではないかと勝手に解釈したのですが、行政の文章で南砺市らしい民藝をどうするかというのは相当悩ましいことだと思います。少なくとも、南砺市らしいとはなんだという話になると、何らかの説明が必要で、そのらしさみたいなものが、日々の暮らしの中の生活文化運動で、それが記録すればいいということではなく、継続して伝わっていくことが大事なので、南砺市で言うと、人間の精神が日々の暮らしに息づいてるということになろうかと思います。ではそれはどこに息づいているかというと、当たり前の習慣の中に息づいている、というようなりアリティがあ

った部分が先ほど仰られた、メッカたる所以だと思います。この議論が本当に難しいところですが、K委員、どうでしょうか。

K 委 員：そうですね。難しいところで、柳宗悦が城端に来て棟方などとの関わりの中で提唱した美しさというものはどういったことを何となく、「あの器が、この器が民藝」ということではないということを南砺市は追及していくべきだという解釈ではないかと思っています。柳さんが感動した南砺市に住まわれている人たちの暮らしぶりをどう今の時代に評価を定めていくかを、言葉にできないから難しいのですが。

B 副委員長：シンプルに「南砺市と民藝」、「南砺市と民藝の再評価」でいいのではないのでしょうか。

K 委 員：さらにそこを突っ込むと、個人的には「土徳」というところまで言及したいところではあります。A委員長も仰っていましたが、民藝はカウンターカルチャーな話になってきますが、その背後にあったのは土徳の精神ではないかと思います。なかなか言葉で表すのは難しいですね。

M 委 員：括弧づけでまとめるのであれば「南砺市と民藝」でいいと思いますが、K委員が仰ったように「土徳」を入れるのかどうかについては、前回の第2次策定時に議論をし、やはり宗教用語にあたるので入れないほうがいいのではないかという意見があり、入れないことになりました。今でもこれが合っていたのかは疑問ではあったのでこの際、入れてもいいのではないかという気はしています。

A 委 員 長：副委員長、いかがでしょうか。

B 副委員長：南砺市らしいではなくて、南砺市と民藝の再評価とすれば十分伝わるし、そのブランド化を目指すということで大賛成です。

M 委 員：私はそれでいいのではないかという気もいたしますが、民藝に思い入れのあるメンバーもいますので、またメンバーで協議させていただきたいと思います。

B 副委員長：土徳のことを言えば、城端や浄土真宗をトータルした、土徳と触れ合いながら柳宗悦は美の法門を城端別院で書き上げたので土徳は深く関わるとおもいますよ。

A 委 員 長：多分、それらも含めて表現しようがなかったので「南砺市らしい」というふうになったと思ったのですが、ぼやっとさせると逆に南砺市らしい民藝とは何だと突っ込まれてしまう部分でもあると思うので、またご議論いただき「南砺市と民藝」にするか「南砺市らしい民藝」にするか、ご検討いただければと思います。それでは基本目標2をお願いいたします。

K 委 員：基本目標2も基本目標1同様、第1次と第2次を経てすべての事業を整理しました。トンマナや解像度を揃えつつ事業を提案しております。現行と大きく見

た目に違うのは、①文化芸術活動団体の育成・支援と②市民・文化芸術団体の交流促進、活動充実の順番が逆になっています。第1次計画、第2次計画の中で文化芸術活動団体の育成支援をある程度成果を踏まえたということで次に向かってどのような方向でいけばいいのかという流れで、文化芸術活動団体の交流促進活動充実をもっと力を入れていきたいという思いで①と②を入れ替えました。また、事務局から話もあったように、多様な世代や価値感を越えたインクルーシブな文化交流と活動支援っていうところを、大きく挑戦していきたいなという思いを込めて、文化芸術活動団体の交流促進の充実というものを重点的に取り組んでいきたいなと思っております。②文化芸術活動団体の育成支援については、これまでと同じように力を入れていくのですが、文化芸術活動団体を育む制度の構築ということで、現状の補助金交付状況等を見直しながら、さらにより深く文化芸術活動団体を応援できる制度を発信したいと思っております。これは、今現在若い世代や、策定の概要のところでありました新しい地域密着型のアートイベントの体制について支援等を行うということもありますように、新しく出てくる目をいかに育てていくかということで市内の文化芸術活動を育成支援していくとアートイベントなどであればスタートアップのような形で当初3年間をフォローアップするなどの新しい仕組みをつくっていきたいと考えています。そういった仕組みから多くの団体さんと繋がることによって11番の「課題のリストアップし支援する」といういい循環ができるのではないかと考えています。第1次、第2次と事業を実施してきた雑感なのですが、現行の基本目標の①、事業番号19文化に関する悩み相談計画確立という事業があったのですが、なかなかスムーズに、悩みや課題をピックアップできなかったという課題がありました。その課題を解決するためにも育成支援の制度とセットにして課題のリストアップと支援をできるような座組にしております。基本目標2は以上です。

A 委員長：はい。ありがとうございます。今ご説明いただいた、基本目標2でご意見はございますでしょうか。

G 委員：芸術団体の育成支援についてですが、なかなか、言葉尻ではうまいことってないというのが現実であります。令和5年5月に福野、福光、井波が一緒になって南砺市文化協会が発足したのですが、当時1600名近くの会員いましたが、現在200名以上の会員が減少しています。若い人たち、世代の挑戦と、言葉自体はそうのように書いてありますが、なかなかそれは現実的には非常に難しいところだと思います。2年半で250名ほど抜けるということはもっと根本的に文化団体の育成をしていかなければなかなか厳しいと思います。会員の皆様はそれぞれ一生懸命やっつけてらっしゃるのですが、例えば1つの団体が抜けると30名ほど会員が減るわけですから、団体の維持が難しいです。

そういう厳しいネットワークで、1回お願いしたのですが、城端地域がまだ加わっておらずまだ南砺市全体でまとまっておりません。現場から言うと、本当に、いわゆる厳しい状況です。どんどん人口減になってるのは間違いないですし、高齢者もどんどん増えているので、もちろん若い世代で大事ですが、この「若い世代の挑戦や新たな取り組みを応援できるように」という言葉じゃなくてももう少し何か強い口調で、今本当に文化を下支えしている、高齢者や、何十年も取り組んでいらっしゃる皆様の支援をしていかないと、なかなか難しいんじゃないかということを、現場で感じております。この減り方から言うと、南砺市文化協会はあと2年経つと、もう半分になってしまうのではないかという危機感もあります。非常にいい企画ですので、今一歩進んで、解決に向けた支援を具体的にいただきたいと、既存の団体の皆様のことも考えていただきたいというのが実感です。せっかくできた文化協会が、あと2年ほどでなくなるんじゃないかという危機感があります。よろしくお願いしたいと思います。以上です。

A 委員長：ありがとうございます。「応援」から「支援」という言葉に変えるだけで意味合いが違ってくると思いますので、行政のできる限りの、事業のあり方を見直していくというような言葉に変えていただければいいのかと思いました。

事務局長：会員の維持や次世代につなげるということが難しい状況であるとお聞きしておりますが、南砺市文化協会さん以外にも南砺市内に同じような悩みを抱えておられる団体があると思います。そういった中で情報共有や意見交換など地域の方のご意見を踏まえながら、まずは協会の組織自体もどういったところに課題があって、あとはさらに今後どうしていきたいか、どう進んでいきたいかというところが、出せるような体制づくりというところが大事だと考えております。南砺市文化協会さんにつきましては、今年度、来年度をかけてそういった課題等を整理していただいた上で、今後発展させていくためにはどうしたら良いのかを相談しながら進めていければいいと思っています。既存の団体について文章をもう少し加えさせていただければと考えています。

A 委員長：はい。どうぞよろしくお願いします。そのほかご意見ありますでしょうか。ないようでしたら、次の基本目標3をお願いします。

M 委員：基本目標3を説明いたします。①創造的で熱意のある人をつなぐ-自然発生的文化創造というタイトルだったのですが、次世代イニシアティブを執る人材の発掘と大幅に変えました。やはり人材の発掘がメインですが、サブタイトルの自然発生的文化創造の文言について、自然発生的とは「勝手に生み出される」ようなイメージで、違和感があるとメンバーから意見もあり、やはり本当に人材の発掘というところに尽きるのではないかとということでシンプルに変えました。また、事業についても現行の(a)と(b)は同じようなこと言ってるの



ではないかということあり、(a) 創造的で熱意のある人をつなぐ、に統合しました。地域文化の担い手を結ぶ人材の発掘と場の提供ということで、イベントやセミナーなど参加者を募って各団体のリーダーや核となる人がお互いに顔を合わせて意見交換や話し合いができる場を提供することによってリーダーを育てていく考えです。これも前回の計画から行っていますが、なかなか難しいです。今ほど G 委員も仰いましたが若い方を巻き込むということが課題になっている状況であるということですが、その内容をシンプルにまとめさせていただきました。次に、②郷土に関心を持つ子供たちの育成について、こちらはほぼ変わってはいないですが、現行のものにはお祭りスタンプラリーの実施や和紙アートコンクールの充実など細かい個別事業がそれぞれ載っていたので、これは含まれる解釈ではないかということで、(a) 子どもたちの郷土愛の醸成、と (b) 子ども体験型事業にそれぞれ 2 つずつ、計 4 つにまとめております。中でも時代に合わせたというところで、(a) 子どもたちの郷土愛の醸成の中に、南砺の文化やお祭りなどを解説した「資料」の作成を入れております。現行では冊子の作成となっていますが、この 5 年間の間で制作にとりかかることができませんでした。時代もやはり冊子というよりも、デジタルコンテンツ等々いろいろあると思いますので、アーカイブホームページなどの資料にもなるように、資料という書き方に変えさせていただきました。また (b) 子ども体験型事業の充実についても、あまり変えてはいませんが、1 つ目の子どもたちが文化芸術を体験する機会の創出では、現行のものは福光美術館や埋蔵文化財センター、城端曳山会館など、施設名を個別にあげていますが、そこだけではないだろうと意見もあり施設名は外させていただきます。個別の施設に限らず、子どもたちが文化芸術に触れ合う機会を創出するような記載の仕方に変えました。以上です。

A 委員長：はい。ありがとうございました。何かお気づきの点はありますでしょうか。先ほどすごく議論になった当たり前の習慣をこれを起こすという内容がありましたが、やはり受け継いでいくのは次の世代である子どもたちの郷土愛の醸成で、これは家庭でやるべきなのか学校教育でやるべきなのか分かりませんが、当たり前の習慣を受け継ぐのような内容は郷土愛の醸成の中にもあったほうがいいのではないかと思います。それぞれの基本目標が独立しているよりクロスさせたほうがダイナミックになるかと思うので一度ご検討いただければと思います。

M 委員：はい。委員長が仰る通り、現行で言いますと基本目標 (1) ① (b) の事業番号 7 番が、基本目標 3 にも再掲という表現で記載されています。今回の話し合いの中で、複数回書いてあるのは煩雑ではないかということであえて削っております。結局同じものが何度も出てくることが多く、今回は「再掲」をなくし

た形で書いていますが、そうすると連携してここにも関係するというのが、実際にわかりにくくなるという話はしておりまして、今ほど仰られた、郷土に関心を持つというところに、当たり前の習慣を掘り起こすというところが関連するのではないかというご意見は、ワーキング会議に持ち帰って、どこかにそのような記載ができないかメンバーと協議したいと思います。

- A 委員長：はい。現行のものは重なっており分かりにくくなっている部分はありますが、うまく整理していただけるとそれでよろしいかと思います。基本目標 1 で掘り起こし、基本目標 3 は受け継ぐというような流れで受け止めていただいております、物語的にわかるのではないかと感じました。ご検討いただければと思います。ここは大事なところかと思いますが、そのほかはいかがでしょうか。H 委員は教育部の観点からいかがでしょうか。

- H 委員：子どもたちに郷土のことを伝えていくというのは非常に大事なことだと思いますが、まずどんな風に周知していくのかというところが「周知」と抽象的な書き方をしてあるのでもう少し具体的なほうが伝わりやすいかと思いました。また、細かいことですが、②(a)の南砺の文化やお祭りなどを解説した資料については、ここだけ小学校だけに周知するような印象を受けるので、中学校も含めて書いていただいたほうがいいかと思いました。以上です。

- A 委員長：ありがとうございます。ほかにご意見ありませんでしょうか。それでは次に基本目標 4 をお願いします。

- K 委員：基本目標 4、従来の地縁的な「結」に変わる「新しい結」の創生ということで、現行の①集落を超えた「結（ネットワーク）」＝協力体制の構築、については基本目標 3 と同様、「集落」から「地域」への変更と、構築に加え、「発信」を追加しました。そして事業番号が 4 つありましたが、整理し 1 つに集約しております。文化芸術に関する各団体の動向・意識調査ですが、これは定点観測として定期的に現状の把握や情報の収集を行います。第 2 次計画でお祭りや文化行事に協力してくださる人募集する担い手受入れ事業のモデルケースをつくってききましたが、第 3 次計画ではより発展させ、実走できるような事業にしていけたらと思っております。例として、南砺市応援市民制度や観光庁の第 2 のふるさとづくりプロジェクトの実証事業を実施しておりますので、そういったものからどのように地域の行事にコミットしていけるかを検討・模索し、実施していきたいと思っております。続きまして、②広域的な「結（ネットワーク）」の構築で、これも現行では事業番号が 4 つあったものを整理し、(a)文化芸術活動に力を入れる自治体等との交流、情報共有、(b)共通の文化圏内における「結」の拡大、発展の 2 つにしています。(a)文化芸術活動に力を入れる自治体等との交流、情報共有で言うと、文化芸術活動に取り組む自治体や地域との交流を行うことで南砺市のさらなる文化振興を深めていく目的です。

b) 共通の文化圏内における「結」の拡大、発展でいうと、世界遺産や獅子舞などの共通項のある自治体等と交流することで新たな「結」の構築を目指したいと思っています。続いて③南砺の独自の文化の継承、発展につきましては、現行では事業番号が5つあったものを、(a) 世界とつながる「結」の発展、(b) 世代を超えた「結」・「伝統」の継承支援、(c) 独自の食文化の継承・発展の3つに整理しました。(c) 独自の食文化の継承・発展については、基本目標1の日常的な文化にあたる部分でもありますし、やはり料理も南砺市の文化の1つであるということで、文化・世界遺産課と農政課と連携し、記録としてアーカイブ化するなどして独自の郷土料理の継承と啓発をしていきたいと考えています。以上です。

A 委員長：ありがとうございます。いかがでしょうか。

L 委員：(c) 独自の食文化の継承発展について、「食文化に触れる機会を増やし」と書いてあるのですが、この機会を増やすというのは実際に体験する機会のことなのか、ただ紹介されたものを見るだけなのでしょうか。せっかくなら実際に食べたりその場所に行って空気や雰囲気を感じながら食べたりするなどの経験を子どもたちにしてもらえそうな事業にさせていただけたらと思います。

K 委員：ありがとうございます。そのような事業になるように具体的な検討をしていきたいと思っています。

A 委員長：よろしくお願いします。そのほかにご意見はありますか。なければ次に基本目標5をお願いします。

事務局：はい。事務局から基本目標5の説明いたします。まずは目標ですが、現行の「地域コミュニティの振興」だとどうしても自治会や町内会などいわゆる地元の方々を限定しているようなイメージを持つということで、文化芸術を活用した地域振興に変更しております。①情報発信方法の確立につきましては、現行の「新たな」を削除し、「創出」を確立に変更しております。また、事業番号が4つあったものを2つに整理し (a) イベントを活用した情報発信体制の構築は、現行では「国際的なイベント」と限定しておりますので、国際的でなくても様々なイベントを活用したいということで、「国際的な」を削除しております。具体的に言うと、今回獅子舞協議会を開催するにあたり、福光のねつおくりや井波の太子伝観光祭、福野のスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドで獅子舞共演会のPRを行いました。例えば、スキヤキのファンの方は、スキヤキを見に行きますが、そこでPRすることで獅子舞共演会を知り、獅子舞共演会も行ってみたいと思ってもらい、各イベントのファンから南砺市のファンになってもうらうイメージでこの事業案ができました。(b)「南砺市文化芸術アーカイブズホームページ」を活用した情報発信力の強化は、現行の (b) (c) をまとめました。「南砺市文化芸術アーカイブズホームページ」の活用で南砺

市内の文化芸術情報を収集し一元化し（大元）、「様々な媒体を用いた積極的な情報発信」で情報が一元化された南砺市文化芸術アーカイブズホームページを情報誌、テレビ、SNSなどで紹介（拡散）し、南砺市文化芸術アーカイブズホームページに誘導する狙いです。②文化芸術を活かしたまちの活性化は、現行（a）TOGA 国際芸術村構想の計画が終了したことから削除し、（b）に2つ事業番号があったものを1つにまとめ、（a）文化施設を活用したまちの活性化と変更しております。こちらには、現行の基本目標4からアートイベントに関する内容を移動させ、追加しております。そして③文化芸術で地域を豊かに、については（a）文化の創造性を活かした新しいまちづくり、（b）「第2次南砺市交流観光まちづくりプラン」との連携強化、の2つに整理しました。現行の（b）福光美術館の内容につきましては、美術館が組織として独立していることや、子どもたちの芸術鑑賞機会増加については基本目標3、美術館については基本目標1に記載しましたので、内容を削除しております。（a）については、現行の事業番号46と47を「文化芸術を活かした地域活性化のノウハウの共有、魅力発信」にまとめました。現行の事業番号47で触れられている「アトリエ」については、基本目標5②（a）に移動させ、「定住促進」については、文化芸術の魅力による定住を促進するというのはなかなか難しいのではないかと、ということで、南砺市の文化芸術を好きになってもらって、住みたいと思う理由の1つに上がって欲しいというところで、今回はその「魅力発信」として内容を含めました。現行の事業番号48の日本遺産推進事業については、昨年度に重点支援地域になったということでそのままにしています。（b）「第2次南砺市交流観光まちづくりプラン」との連携強化は、現行（c）の内容で、地域個性を活かした文化観光の推進を打ち出しております。文化観光という言葉、私は今回策定するにあたって、初めて知ったのですが、文化についての理解を深めることを目的とする観光、文化・観光・経済の好循環、文化の再投資を指しています。文化観光推進法では、文化資源の観覧や体験活動等を通じて、文化についての理解を深めることを目的とする観光文化観光と位置づけるといふように言われております。南砺市の大切な文化で、地域振興できるようにということで、こちらが皆様と協議して考えた基本目標5の案です。以上です。

A 委員長：ありがとうございます。いかがでしょうか。

D 委員：日本遺産推進事業のところですが、ジソウラボさんが年月をかけて大きな事業が通り、市も支援していくということですが、現行と同じ表現ですので、もう少しボリュームをつけて、例えばジソウラボさんを関係団体や地域団体といった表現で追加したり、文化・世界遺産課を追加するなどしてもいいのではないのでしょうか。

L 委 員：②（a）の福野文化創造センターの名称は、ネーミングライツ・パートナーのなんとエナジーを追加されなくていいのか確認いただければと思います。

G 委 員：先ほどの基本目標 1 で言えばよかったのですが、アーカイブズホームページの文言がたくさん出てきているのですが、これから先はやはりインスタグラムなど時代になってくるのではないかと思います。いろいろな資料を見ていても、10 代から 30 代はホームページをほとんど見ず、見ているのはほぼインスタグラムを中心とした SNS で、ホームページをみているのはもう 60 代や 70 代になってきているという時代で、若い世代が情報をキャッチできるような、もう少しホームページにこだわらず情報発信の範囲を広げていっていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

事 務 局：はい。仰る通り、時代の変化に伴い、インスタグラムや T i k T o k など、私自身ついていけないのですが、若い世代ではいろんな SNS が進んでいます。そこで、文化芸術アーカイブズに情報を一元化し、SNS を含む様々な媒体でその情報の一元化された文化芸術アーカイブズを紹介・拡散することで、ホームページに誘導して南砺市の魅力を存分に知っていただければと考えております。まずはその土台として、文化芸術アーカイブズへの情報の一元化に注力したらよいのではないかと検討をしています。

B 副委員長：基本的なところですが、現行の基本方針である、「「結」の力を「結ぶ力」に」について、今回は変えないのでしょうか。田植えなどを近所でお互いに助け合って行い、無償の報酬と言わず語らずしてお手伝いに行くという、労力を交換し合う風習で、労力の提供を受けた場合は、同等の労力をお返しするという、農家の助け合い精神を表したのが「結」だと思いますが、文化芸術と「結」は、あまりリンクしておらず、馴染まないような気がします。事業などの内容は分かりやすくなっていると思うのでこの機会に、キャッチフレーズを思い切って変えて今の時代にふさわしいものに刷新するのはどうでしょうか。

K 委 員：何となくこの基本方針はそのまま変えずにいくようなイメージでしたが、ワーキングメンバーで協議して、いくつか次回の策定委員会で提案する形でもいいかと思います。根本的な流れなどは変わらないと思うので、表現の仕方ということですね。

B 副委員長：文章を読んでも分かる通り、ここでいう「結」というのは、ネットワークを指しているかと思います。本来の「結」とはずれているのではないかと思いますので検討いただければと思います。

事 務 局：はい。これまで協議してきた中で、基本方針について具体的な案ではないものの、部会でもいろいろご意見いただいておりますので、また皆様と検討していいキャッチフレーズなどを、次回の策定委員会でいくつかご提案できればと考えております。

B 副委員長：南砺市らしい文化をどのように次の世代に繋いでいくかということが重要になってくると思います。もう1つ補足させていただくと、それぞれの町には絶対に守らなければいけないイベントや祭事などの伝統文化があり、それは子どもたちにも教えなければいけないと思います。ただ昔は、それぞれの趣味を活かして絵を描いたり、俳句を詠んだりするなどが普通でしたが、最近はあまり行われていないように思い、危機感を覚えます。祭事などはもちろん守っていかなければいけない大事なものです、市民が日常の文化も大事にするような、市民の日常に文化が根付くにはどうしたらいいか、それぞれの趣味を生かせるような市民であってほしいと思いますので、ぜひそのようなことも視野にいった計画になったらいいと思います。

F 委員：小さい子たちが文化や郷土食に触れ合うというのも大切ですが、南砺市内にある南砺福野高校と南砺平高校の生徒たちが卒業して大学に行ったり就職をしたり、バラバラになったときに戻ってきたいと思うような取り組みが必要なのではないかと思いました。

E 委員：南砺市の、ここにお集まりの皆様の文化芸術に対する強い愛や結束、まさに結ぶ力というのはこういうもので、この計画ができたのだというふうに感じました。よく現状を把握しておられて皆様で検討して、どうすればいいかというのが、具体的に書かれている、本当に素晴らしい計画だと感じました。南砺市は、伝統文化、歴史文化も豊かで、こちらにしながら、世界や日本を代表するような芸術文化、歴史に触れられるような環境があると思っています。それらに価値を感じ、惹かれて海外や県外から移住されるような作家さんがたくさんおられると思っています。ただ、市民の皆様にとって身近すぎるのか、その価値に気づくのが難しいのではないかと感じており、民藝にしても土徳にしても知的レベルの高い人が勉強してやっと理解できるような部分でもあると思うので、子供たちに継承していくためには、もっと親しめるような、簡単にとつきやすい仕組み、仕掛けが必要なのではないかと感じました。以上です。

A 委員長：ありがとうございました。行政計画でこれほど哲学っぽい議論をするのはなかなか珍しいですが、いくつか宿題をいただきましたのでまたご検討をお願いします。B 委員からもいくつかいただいたのですが、やはり冒頭の、「南砺市らしい民藝」や「土徳」など、地元でご議論いただかなければいけないのですが、1つ大きなジレンマがあって、例えば先ほどの「結」、いわゆる結的精神、結の精神はお互いの無償の交換のような精神性は外から見ていると、ものすごく美德に見えますが、外から見てる美德が中から見ておられると、「土着」のような部分もありうまく合わないですね。なので、これはやはり地元の方にご議論、ご決定いただくのがいいと思います。また、「当たり前の習慣を掘り起こす」も外から見てる美德に見えますが、実は古い慣習などは若

い世代にとっては抵抗があったりしますよね。私が先ほど申し上げた、子供たちに伝えるというのは、外から見た美徳なのだと思います。この辺をどう調整させるかというのはとても大変だと思いますが、美徳の押し付けはよくないのでその辺りは、地元の方が納得いかれるような議論をしていただきたいです。何が評価されていて、何は受け継ぐべきもので、どこは変えていくべきことだ、というようなところを踏まえてそれをシンボリックに表す言葉が、「結」として置いてあると思うのですが、いわゆる土着的なところにすごく抵抗がということであればもちろん、変えていかなければいけませんので、そのあたりは、詰めて議論していただくという、とても大変な宿題を押し付けて申し訳ないのですが、1度ご議論いただければと思っております。ここまでを踏まえて何かご意見はありますでしょうか。なければ今後のスケジュールと報告にうつります。

事務局：はい。今回の策定委員会の皆様方からのご意見を踏まえまして、11月に推進ワーキンググループ会議を開き再度検討し、素案を策定して参ります。次回の策定委員会で素案をお示しし、委員の皆様からのご意見をいただければと思います。なお、状況によりましては、書面での意見聴取をするということも検討します。年明けには、パブリックコメントを受けまして、計画案の承認や議会への報告を行い、計画を作成していきたいと考えております。以上です。

K 委員：続いて、10月11日に開催された南砺獅子舞共演会について報告させていただきます。会場は城端別院善徳寺で、練り歩きは善徳寺を中心とした市街地で行い、善徳寺にてワークショップや獅子頭展示も行いました。当日は天気が不安定でしたが、何とか雨に降られることなく実施し成功に終わりました。獅子頭展示については城端地域に絞り、すでに獅子舞を行っていない集落にもお声がけし14体の獅子頭をお借りして共演会を挟んで前後3週間展示させていただきました。獅子舞の事業は、多くの来場者の前で獅子舞を披露することによって、文化芸術の視点からモチベーションの向上、観客にとっては南砺市の誇る文化的財産の価値の再認識、周知を図ること、また共演会を通して市内の獅子舞団体同士の交流や情報交換などの機会を創出し、団体間の連携体制構築の契機とすることを目的として行っています。獅子舞共演会の約1年ほど前から、城端地域の獅子舞団体さんに集まってもらい意見交換をしつつ、丁寧に獅子舞事業を実施してきております。実施体制としては主催は、南砺獅子舞実行委員会で、運営事務局として、4月に一般社団法人南砺文化芸術振興機構というのをワーキンググループの中の有志で立ち上げ、そこで行政と民間との連携をしながら、南砺獅子舞事業を実施できるような体制を構築しました。これは第1回は市の直営として、第2回は事務局が外部にありつつ、ほぼ運営は市で行い、今回の第3回目にして事務局も運営も民間で行う挑戦をし、ステ

アップアップしている状況です。出演団体は市内5団体で、各団体それぞれ違う獅子舞形態で見応えがありました。今回、挑戦したこととして特別観覧席を設けて、限定で20席、7000円で販売したところ、17名の参加をいただきました。こういった形でなるべく獅子舞というものからその事業として確立できるような取り組みを少しずつですが進めております。獅子舞共演会来場者数はおおよそ1000人。非常に善徳寺という会場をフル活用させていただき、ロケーションのいい雰囲気のある中で開催できたと思っております。また、11月23日に事後開催として、富山大学の人文学部文化人類学研究室と連携してシンポジウムを開きます。南砺獅子舞事業としては、ただ単に共演会をするだけではなくていかに獅子舞団体同士の交流を図って情報交換していくかということが当初からの課題であります。まず一番最初の開催は2018年で獅子舞団体呼んで交流会を開き、その時の女性の獅子取りをされている団体さんは数えられるくらいだったのですが、コロナ渦を経て、今回の獅子舞共演会に参加いただいた団体の中でも何名もの女性の参加が見受けられました。今回のシンポジウムは女性の参加を考えるとということをテーマに、より南砺市内の獅子舞団体さんに、こういった事例もあるんだということを知ってもらって、まだ女性参加を認めていない方々にも柔軟な考えを持っていただける機会になればと思い、企画しました。多くの皆様にご来場いただければと思います。以上です。

A 委員長：では、全体を通して何かご意見はありますか。なければ事務局に進行をお返しいたします。

事務局長：はい。今ほどは、皆様から今から本当に様々なご意見等いただきましてありがとうございました。時間の制限もありまして、なかなか言い足りなかった方やまた終了後に新たな提案や発想が出てきた方もいらっしゃると思います。お手元に2次元コードのついて用紙を配布しておりますので、2次元コードもしくはFAXにてご意見を頂戴できれば幸いです。次回の策定委員会の日程についてですが、12月ということで皆様お忙しいところかと思いますが、ご都合のつく限りご出席いただければと思います。詳細については後ほど送付いたします。それでは閉会にあたりまして、B副委員長さんから閉会のご挨拶をお願いできればと思います。

B副委員長：報告にもありましたが、第3回目の南砺獅子舞共演会が盛大に開催され、大変嬉しく思います。たくさんの獅子頭が善徳寺に展示されたり、ワークショップも非常に盛り上がり、素晴らしいイベントだったと思います。実行委員会の皆様には大変お世話になりありがとうございました。心から感謝申し上げます。昔から、土徳と同じような意味で使われているのだと思いますが、身土不二という言葉があります。ご飯を炊いたら仏壇におぼこさんをあげる、毎日お経を



読む、農家同士で助け合う、など生まれながらにして、子供のころからなんとなく身につけている信仰心や近所の助け合いなどが、身となり精神的な土台になって大人になっていく、そのような地域でありたいと思っており、強い文化を大事にしたり地域の人を大事にしたり結の精神であるところに繋がっていくのではないかと思います。これからもその精神が続いていく南砺市であってほしいと思っています。策定に向けてまた皆様のご協力をいただき、いい計画になればいいと思います。次回の12月ということで、忙しい時期ですがまたお集まりいただきたいと思います。今日はありがとうございました。

事務局長：ありがとうございました。以上をもちまして閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。